

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

こすもすの家

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 介護支援専門員経験5年

評価調査員 在宅介護経験15年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「今日は寿司を食べに行こう」と誘われて、利用者達はいそいそ出かける準備をする。「外は寒いかもしれん。あんたええの着とるなあ、ぬくそうじゃ」仲間の服をほめる。「これはあったかいし軽いんじゃ、私が編んだんよ」「えらいもんじゃなー、大事にしなせーよ」利用者同士の会話も弾み仲が良い。自分の靴を追いかけられる人もいて、皆うきうき忙しく車椅子や手押し車で外に出て、次々と車に乗り込む。「あんた行きんちゃい、うちゃ行かん」と言っていたAさんも、リビングルームに人がいなくなると「皆どこ行ったん？」と落ち着かなくなり、やっぱり一緒に行く気になった。「社長がおごってくれるん？ おごってもらうてもええん？ 昼ご飯に間に合うか？」車に乗ったAさんはずっとしゃべりっぱなしだ。Aさんは何かしていないと、トイレに行きたくなる。職員は笑顔で気長に相手する「車いっぱいあるなー、大きな家じゃ」窓から外の景色を見ながら「しゃんとしとるか！！」運転している職員に喝を入れ「有難いなあ、うちら満がええなあ」と楽しいドライブだ。回転寿司の席につき「何にしよう、何がええ？」職員も利用者もどれにしようかと流れる皿に目を凝らす。いつもはむせる人もゴホゴホ言わず、食が進む。「もう入らんようになった」と言いつつもデザートは別腹、いつもと同じようにBさんは、箸で上手にプリンを食べる。美味しく食べて、満腹の幸せいっぱいでの帰りの車に乗ったAさんは開口一番「さあ、帰ったらご飯じゃ。あんなに人がおって、私は食べとらん」と言う。「Aさんんお好きな鶏肉だったらええな」「そうじゃ、あっさりしとる。じゃがお腹はいっぱいじゃ」言いつつAさんは気持ちよく寝てしまう。「食べた事は忘れとるが、寿司屋へ行った事は覚えとる」職員達は微笑み合う。ホームに帰ったAさんと職員のやり取りが又愉快だ。「ご飯たべたか？」「私と一緒に寿司食べたよ」「まあ、私じゃ何にも覚えとらん」「大丈夫！私が覚えとるから」「判った！あんたに任せる！私じゃいつもあんたの味方じゃ」にっこり笑ってこう言われると、職員も嬉しい。「毎日が楽しい。利用者はおじいちゃんやおばあちゃん、スタッフも入れたら、お兄ちゃんもお姉ちゃんもおるし、みんな和気あいあい、いつも皆に癒されてる」若い職員が話してくれる。利用者・管理者・職員それぞれが、自分らしさを出せて元気が良く、共に居る事を楽しんでいる。人柄の良さそのままの親しみと安らぎに満ちた居心地の良いホームであることが確認できた。

特に改善の余地があると思われる点

利用者と関わるうちに、新たに分かった情報をどんどん追記して行って、職員全員で共有できるよう工夫してみよう。利用者への言葉かけや、コミュニケーションを図る上でのヒントになる事も多そうだ。今後とも気持ちを大切に人情味のある支援を継続して行って欲しい。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホーム開設時に、代表者の強い思いで作成した理念は全くゆるぎなく、職員間にもよく浸透できているので、特に改善項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…：「私達は生きる力を支援しているのだから、できる事はどんどんしてもらおう。本人がしようとしているのに、時間がかかるからと手を出したら、その人の意欲を損ね、出来る力を奪ってしまう」と代表者は常々職員達に伝えている。「不安そうな顔してたらとことん話して、手を出さず辛抱強く見守ることを頑張って、一緒に楽しくやれたら良い。何よりも利用者達の笑顔が見られるのが嬉しくて、それがパワーになる」と話す元僧侶の修業を積み重ねてきた若い管理者は、その大らかな風貌そのままに人間味溢れる温かさで、何かあったら何でも言えそうな気にさせる。代表者は安心して現場を退き、運営全体をサポートしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ハード面の生活空間は充実しており、改善項目は特になし。利用者達はウッドデッキのベランダを通して隣接するグループホームへ行き来し、庭や畑をうまく活用しながら、落ち着いた生活環境の中で生活できている。</p> <p>2、全体的に見て…：ホームは同一母体法人のデイサービスセンターやグループホームと同じ敷地内にあり、安全で安心な相互間の交流は、利用者達の日常に変化と広がりをもたらしている。「餅米蒸せたか？もっと練るんじゃ！」皆で餅つきしたお餅を、隣のグループホームがぜんざいにしてホームにもおすそ分けしてくれた。「ぜんざいどうぞ」「あんた食べんちゃい」「私のもあるから大丈夫」楽しいやり取りを、ホームのペットの猫が聞き耳立てて聞いていた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	評価	不能
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援	評価	不能
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者も職員も地元出身者が多く、家族もよく関わり、相互協力・理解ができている。特に改善項目はないが、ホームは利用者の心のケアを最優先のより深い支援を目指そうとしている。</p> <p>2、全体的に見て…：胃ろうをしてホームに来た人に、本人が望むならできるだけ口から食べようと支援して、今では胃ろうを使わず食事がとれるようになった。帰宅願望が強いいつも大きな荷物を背負って歩きまわっていた人が、不安になったらどこかへ帰ろうと思うのは当然だと寄り添う職員の関わりで落ち着いた。精神障害と徘徊が激しく、シーツを破ったり窓を杖で叩いていた人が、ホームで暮らすうちに穏やかになり笑顔になった。ホームは排泄に力を入れ、おしめはずしに積極的に取り組み、今ではおしめの人は皆無の快挙を成し遂げている。ホームに来て良かった事例は多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営体制全般において、代表者の方針は全体によく伝わり、代表者・管理者・職員それぞれが認識を共有して協働できている。家族や地域ともよく連携がとれている。特に改善する項目はないが、現在行っている業務を充実させ、さらなるレベルアップを図ろうとする意欲を感じた。</p> <p>2、全体的に見て…：昨年、地域のとんど祭りに参加したいと地域のイベント関係者に話すと、怪我や事故のあった時の事を心配され、何度もお願いしてやっと実現した。しかし少しずつホームの事を分かってもらえて、今年は「はよう連れてきちゃれ」とすぐに受けてくれて「さーここに座ればいいよ」と席まで用意してくれた。ホームと同一母体法人全体での働きかけで、地域での認知症の理解が深まってきている。代表者は新たに認知症専門デイサービス開設を予定している。過疎化が進み、住む人のいなくなった古い民家を再利用しての取り組みは、地域にも歓迎されている。</p>		